

平成30年11月19日

## 第2回 学校運営協議会議事録

### 協議会委員

堅田利明、福田順子、北村 剛、森 隆裕、藤田佳久、井谷和子

### 本校出席者

松浦正明 校長

田原 聡 教頭

山口範晃 事務長

前出和彦、富田哲司、中村秀治、藤本信吾、梅崎 亮

進行 本校教頭 田原 聡

### 1 校長挨拶

第1回以降の主な行事等の報告。

#### 海外滞在研修

##### イングリッシュキャンプについて

30名の生徒が参加。他校からのNETを含め6名の外国人教師と3日間英語をベースとした様々なワークにチャレンジした。

#### カーラムダウンズ校生徒の来校

海外滞在研修でお世話になったカーラムダウンズ校の生徒数名が来日し、一週間本校をベースに活動。

#### 学校説明会（10/13土・27土）

中学生 936名 保護者 503名が参加。

#### 国際教養科

今後の国際教養科のあり方についてご意見を賜りたい。

### 2 事務局より

平成30年度の取り組みについての中間報告

#### (1) 授業アンケートの取り組みについて

##### 第1回目の取り組みと結果について

概ね良好な結果であった。課題の見えた教員には改善をはかるよう管理職より指導が入る。筆答部分もあり、生徒の声は該当の教員に届けている。

#### (2) 授業見学の実施

今年度も重点期間を設けて、教員相互の授業見学を実施した。

## (2) 教務部より

### I C T機器の活用について

今年度さらに短焦点プロジェクター数台を導入。若手教員だけでなく多くの教員がI C T機器を授業で活用している。

### 授業時数の確保

災害等で休校になった授業の補填に苦勞している。

### 次年度の授業計画について

5月の10連休が年間スケジュールに影響を与えている。

### 総合的な学習の時間について

次年度より新カリキュラム「探求的な学習の時間」の先行実施がはじまる。今年度までの「総合的な学習の時間」の学びを軸として、より深い学びに結びつける方向で検討を開始。

## (3) 生徒部より

### 1 生活規律を確立させる取り組み

#### 生徒状況

学校生活は落ち着いており、勉強や部活などに集中できる環境が保たれている。

#### 遅刻

今年度は例年に比べ微増であるが（それでも大阪府では遅刻の少なさはトップレベル）、ほとんどは体調不良などで事前連絡があるもの。教員による丁寧な遅刻指導を毎日おこなっている。

#### 交通安全指導

府下では自転車事故が増加しているため、今後はよりいっそう力を入れたい。

### 2 学校行事・部活動

#### 学校行事

生徒主体の大原則をまもる。体育祭・文化祭とも3年生がリーダーシップを発揮して、素晴らしい内容となった。来場者 体育祭 442名 文化祭 1441名

#### 部活動

本年度は1年生の加入率が高く(80%)退部者も少ない。今後も学業との両立を目指し指導を続けたい。

#### 生徒会

11月より後期執行部が活動開始。10月の学校説明会では学校施設見学の案内役を務める(前期執行部)など様々な活動をおこなった。

(4) 進路指導部より

1 進路希望について

全体の9割近くが大学進学を希望している。一方短大や専門学校の希望者はやや減少。

2 今年度の入試情報

安定志向は近年の全国的な特徴であるが、本校でも例えば中堅私大希望者が例年になく増加したり、指定校利用者も増加が見られる。

(5) その他

特になし。

司会交代 田原氏から堅田氏

3 質疑応答

Q 授業見学（教員相互）に参加される人数はどのくらいか。

A のべで60人ほどである。参観者はワークシートを記入し授業担当者に渡す。授業力向上をいっそう進めるためにより多くの参加を促したい。

Q 生徒指導について、生徒会としての活動をはじめ、日常的に力を入れている活動は何か。

A ボランティア活動です。マラソン補助（淀川河川敷でおこなわれるマラソン大会で視覚障がい者の伴走をつとめる）や献血活動に高校生としてできる範囲で取り組みました。また、球技大会の運営など新たな行事にも取り組んでいます。

Q 学習指導要領の先行実施について、どのように取り組んでいるか。

A 教科に関する変更点についてはすでに周知徹底している。次年度より委員会を立ち上げて具体的な検討を始める。

準備のスケジュールは資料にも示している。高大連携改革（入試改革）も迫っているが、こちらにも取り組んでいる。

Q AO入試の内容はどのようなものか。

A AO入試とは、各大学が明確な志望動機や入学の意志が固い生徒を一般的な入学試験とは異なる方法で獲得するための入試で、小論文や面接などが重視されます。

Q プロジェクターなどの導入は計画的におこなっているのか。

A 毎年一定の予算は確保しているが、数年ののちには文部科学省が全ての学校に導入すると明言しているので、急務ではないと認識している。

Q 英語の授業について、少人数展開授業のクラス分けはどのようにおこなっているのか。

A 出席番号順で分けている。

